

(I) 小括

この節では、デジタル化によって職場がどのように変化してきたかを整理した。その結果、以下の点が明らかになった。

- ①職場全体での情報の共有はできており、上司はリーダーシップを発揮して仕事をしている。また、上司による部下のフォローやサポートも、概ね良好である。上司は、部下の育成に熱意を持って当たっている。
- ②関係部署との連携はできており、職場方針への理解や職場目標達成の取組もできている。
- ③仕事の手順の見える化は概ね進んでおり、PDCA サイクルで仕事を改善していくことにも取り組んでいる。
- ④上司の意思決定は迅速であり、上司との日常のコミュニケーション、職場メンバー間のコミュニケーションも良好である。また、お互いの家庭状況はだいたいわかっている。
- ⑤一部の人は根回しに時間をとられることが多いと感じており、一部の人に仕事が偏りがちだという意見も見られる。また、急な仕事に対応できる人が高く評価される傾向がある。ただし、残業や休日出勤に応じられる人が高く評価されることはないし、自分の担当している業務が終われば他の人が残っていても帰ることに支障はない。
- ⑥効率のいい人に仕事が集まりがちではあるが、仕事を教えあう風土があり、男女を問わず最後との割り振りや評価は、概ね公平に行われている。
- ⑦新しいアイデアを積極的に提案する雰囲気があり、新しい手法やアイデアをとりあえずやってみるといった雰囲気がある。また、仕事上の問題や課題を積極的に議論している。
- ⑧デジタル機器を使いこなしている場合と使いこなしていない場合の差が大きくなっている項目は、「職場メンバーとのコミュニケーションは良好である」「仕事のノウハウを教えあう風土がある」「新しいアイデア・手法を積極的に提案する雰囲気がある」の3つである。
- ⑨会議やミーティングの形式として多いのは、オンラインを基本として対面がときどき行われるというものである。その形式で必要な情報の共有は、ほぼできていると考えている。
- ⑩今後の会議・ミーティングのあり方については、目的に合わせて対面とオンラインを使い分けるようにするのがいいと考えている。コロナ禍終息後も、週に1～2日はテレワークで働くのが望ましいと考えている。